



喜多埜

歯神社例祭のご案内

来月四日は当神社の飛地（とびち）末社である**歯神社の例祭日**です。この歯神社は小さな祠（ほこら）のお社で、繁華街の中心、角田町において**唯一戦前から残る建物**として、梅田の地に今も御鎮座されておられます。

御由緒は江戸時代に、淀川の氾濫があった時に遡り、この歯神社の御神体である**巨石**がその洪水の流れを歯止めし、水没から梅田の街を守った事から**歯止めの神様**として慕われた事に由来します。後世、音韻が通じるのを以って「**歯痛止めの神様**」とも呼ばれ、更に時代が下がるにつれ、歯のご利益あらたかなるを遠近に知られるようになり、歯の神様「**歯神社**」として、今では全国の歯に関わる方々から崇敬されるお社として知られています。

当日は**午前十一時より歯神社前にて神事**があり、氏子崇敬者をはじめ参列者皆様の歯の健康と、歯ブラシへの感謝の心を御祈願いたします。終了後（十一時半頃）に歯ブラシの授与がございます。尚、歯ブラシの授与数は**先着百名さま迄**とさせていただきます。

皆様のお参りをお待ち申し上げております。

名称 歯神社例祭（歯ブラシ感謝祭）

日時 平成十九年六月四日 午前十一時

場所 大阪市北区角田町二番八号 歯神社

（ユニクロ梅田店入口横）

備考 歯ブラシ授与は先着百名迄。

お問い合わせ 網敷天神社 御旅所まで

五月の二十四節季

日本には春夏秋冬の四季がありますが、この四季を太陽の運行に基き、現在の暦とも合わせて更に細分化したものが二十四節季で、一ヶ月を二季に分けています。

この五月には**立夏（りっか）**と、**小満（しよまん）**という名の二季があります。

立夏とは読んで字の如く、夏の始まりを意味し、五月六日頃がその日にあたります。この頃からだんだんと気候が夏らしさを伴ってきます。この時期には**カエル**が鳴き始め、野山には**筍**が生える時期とされ、伸びやかな成長を祈る「子供の日」に近いこともあり、旺盛な生命力を感じる季節といえます。

小満とは五月二十一日頃で、**万物がある程度の域にまで育つ**という意味です。この時期は**蚕が桑の葉をよく食べ一番成長する時期**で、野山には**紅花が咲く季節**とされます。

その紅花ですが、昔は**温暖な畿内での栽培が中心**であったので、五月下旬が紅花の盛りでしたが、現在は北陸がその栽培の中心になった為、**一月遅れて六月下旬が花の盛り**となっています。ちなみに畿内で栽培されていた頃の紅花は**未摘花（すえつむばな）**と呼ばれ、源氏物語にも記されています。

五月は成長ある陽気の季節といえそうです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、

au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

